

NEXCO東日本グループのあゆみ

2005年10月に設立された「NEXCO東日本」は、前身の日本道路公団の分割・民営化により誕生し、グループ会社とともに、東日本地域の高速道路・自動車専用道路の建設と管理・運営等を行っています。日本道路公団の歴史を含めると、もうすぐ70年。これからも培った経験とノウハウを生かし、高速道路の安全・安心・快適・便利を支え、日本経済の発展に貢献し続けます。

経済貢献 (開通)

北関東道(全線) 開通

北関東3県間の交流がスムーズになり、新たな産業の大動脈が誕生しました。



道東道 夕張IC～占冠IC間 開通

この開通により、道央圏と道東圏が高速道路により結ばれました。



圏央道 東金JCT～木更津東IC間 開通

千葉県を中心とするネットワークの広域化が図られました。



常磐道(全線) 開通

東北道と常磐道のダブルネットワークが形成されました。



圏央道 桶川北IC～白岡菟蒲IC間 開通

東北道から東名高速までつながり、首都圏の交通流動に変化をもたらしました。

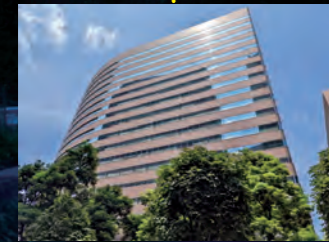


東京外環道 三郷南IC～高谷JCT間 開通

この開通により、東京外環道の約6割が完成し、4つの放射道路(東関東道・常磐道・東北道・関越道)が接続しました。



2005 — 2008 — 2009 — 2011 — 2013



東日本高速道路株式会社 発足
公団が分割・民営化され、「高速道路株式会社法」に基づき、NEXCO東日本／NEXCO中日本／NEXCO西日本が誕生しました。

危機管理 (防災・減災)

東日本大震災による被災

震災の被害を受けた区間は20路線、約870km。NEXCO東日本では応急復旧工事に昼夜を問わずに取り組み、震災から約20時間後、緊急車両の通行を可能とする仮復旧を完了し、震災から13日後にほぼ全線で一般車両の通行を可能としました。



チャレンジ

「Pasar」が誕生

「あるから利用する施設」から「進んで利用したくなる施設」へ。NEXCO東日本の挑戦第一歩となる「Pasar幕張」が開業しました。



インドへの事業進出

インドにおいてNEXCO東日本が持つ技術を広く提供するため、海外事業推進の基盤となる初の海外事務所をニューデリーに開設しました。



2014 — 2015 — 2016 — 2018 — 2020 — 2021

防災拠点の誕生

「サービスエリアの防災拠点化」のフラグシップとして、守谷SA(上り線)がオープンし、サービスエリア機能に加え、有事の防災拠点機能も備わりました。



関東支社 道路管制センター リニューアル

最高水準の耐震基準を採用する道路管制センターとして、リニューアルしました。



SMH運用開始

技術者とICT等のベストマッチングを目指した「SMH*プロジェクト」において、第1期運用を開始しました。



*スマートメンテナンスハイウェイの略称 (Smart Maintenance Highway)

インフラ長寿命化基本計画策定

2014年にインフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議でとりまとめられた「インフラ長寿命化基本計画」に基づき、当社が管理する高速道路の更新等を着実に推進するための中長期的な取組みの方向性をとりまとめました。



総合技術センター運用開始

現場経験を補完する体験型・体感型研修を可能とする総合技術センターを開業しました。



「moVision」が始動

「自動運転社会の実現を加速させる次世代高速道路の目指す姿」をとりまとめ、31項目からなる「重点プロジェクト」を開始しました。

